

撫養鹽務局

見能林出張所之部

撫養鹽務局見能林出張所ノ部

第一章 鹽田位置方位及附近ノ地勢地形

當答島濱ハ那賀郡極浦ノ北岸ニ位シ北ハ約五間有餘ノ溝渠ヲ隔テテ大潟ニ接シ東ハ大潟灣ヲ扣ヘ遙カニ紀州ヲ望ム西ハ桑野川分岐シ其下流ニ接シテ姪子山ト對侍ス而シテ北方ヨリ南ニ至ルニ從ヒ順次低下ス東方ニハ姪子山、津ノ峯等ノ山脈アリ北方大潟ニハ一帯ノ小丘アリテ東方ニ延ヒ大潟灣ニ突入シテ半島ヲ成ス、故ニ當鹽田ハ南方ニ至ルニ從ヒ其ノ地質如何ニ係ラス好良ナリ而シテ北ニ田圃小丘アリ其界線ニ約五間ノ潮水路アリテ流水浸入ヲ遮斷シアリ爲ニ北部ハ鹽分稀釋殊ニ潮水路ノ附近ニ石灰製造場アリ之レ等ノ爲北部ノ製鹽ハ其ノ質不良ニ歸ス池沼及森林ハ其附近ニ見ルヘキモノナク只當鹽田東北ノ一隅ニ於テ面積二反八畝二十九歩ノ池ト南部ニ於テ之ニ數倍セルモノトアルノミ是等ハ以前ハ鹽田ナリシモ先年海嘯ノタメニ堤塘破レタルトキ形成セシモノニシテ今尙水草繁茂シ魚類棲息セリ當鹽田ハ東西ニ長ク南北ニ短ク稍長方形ニシテ西南少シク欠ケリ。

第二章 鹽業沿革

當答島濱ハ寛永年間ノ創業ニシテ初メ撫養ノ城主タリシ四宮加賀守名ヲ與一右衛門ト改メ後此地ニ來リ鹽田ヲ開懇セリ第一着地トシテハ長濱(姪子山麓ニアリ天災ノ爲現今米田ニ變セリ)ニシテ其ノ他西濱(現今米田ニ變セリ)新長濱(現今原野)東濱(現今鹽田)新築濱(現今鹽田二軒前海嘯ノ爲二軒前欠損セリ)大潟濱(現今海底、鹽田)三本松濱(現今海底)幸野濱(現今海底)等順次開懇セリ

以上八ヶ所ノ鹽田最盛ノ時ニ在テハ其ノ反別實ニ七十六町八反六畝二十二歩、六十三軒前(一軒前トハ概子一町五反歩内外ナリ)製鹽額七萬石ナリシト雖モ嘉永二年以降頻回ノ海嘯ニ遭遇シ或ハ原野トナリ或ハ米田ト變シ現時ハ五十二町三反余歩

ニシテ三十四軒前ニ減退シ爲ニ其ノ産鹽額モ僅カニ三萬石余ニ過キス之レヲ盛時ニ比スレハ實ニ四萬石ノ減縮ヲ來セリ
長濱、西濱、新長濱、東濱、新築濱

以上ノ五ツ濱ハ曾テ藩臣長谷川近江守ノ領有ニ歸シタリシモ後故アリテ藩主ノ所有トナレリ之レヲ以テ世稱シテ長谷川ノ御上リ地ト云フ

大瀉濱、三本松濱、幸野濱

以上ノ三ツ濱ハ藩主ノ直轄ニシテ之レヲ御藏濱ト稱セリ

燃料ハ山脈近キ爲往時ハ薪柴ノ價格非常ニ低廉ナリシモ爾來之カ欲乏ヲ訴ヘ從テ價格モ昇騰セルニ依リ間々石炭ヲ使用スルモノアリシモ當地ハ南方ニ避在シ運搬不便ナル爲往々薪材ヲ利トスルノ傾キアリ

製鹽隆盛ノ時ニアツテハ食鹽回漕ヲ專業トスル船常ニ四十余隻海邊ニ往來シツ、アリタリト云フ

第三章 製鹽方法

甲 鹹水採收

一 鹽田ノ種類及面積

撰定地答島字新濱八十九番、九十四番地山腰宅藏氏ノ鹽田ヲ撰出セリ當鹽田ノ位置及地質等實ニ

當答島ノ中間ナランカ南北ノ中央ニシテ東ハ大瀉灣ニ望ノリ

總反別 三町二反八畝二十步

釜屋面積 二十七坪

貯藏小屋面積 十八坪

鹹水貯藏小屋面積 三十六坪

宅敷地總坪數 二反五畝余

沼井臺總坪數

三百有余坪

溝渠ノ延長

八百十四間余

全上ノ面積

四百十四坪

堤防面積

三百四十一坪余

二 堤防ノ面積高低及築造材料

當答島鹽田ヲ周圍スル堤防ハ總テ石ヲ以テ積立テ防波ノタメ設備シタルモノニシテ高サ

九尺巾五尺此延長四百十間餘面積三百四十一坪餘

隣接鹽田ト境界ノ堤防ハ巾三尺高サ二尺五寸此ノ鹽田反別ニ對スル延長百九十一間餘面積九十五坪余(圖面參照)

三 鹽田内溝渠面積 延長八百十四間余全面積四百十四坪

四 撒砂(鹹砂)浸出裝置(沼井又ハ臺等)ノ構造、面積、個數及大小、高低、配置、施設

(圖面參觀)

五 撒砂(鹹砂)貯藏裝置、構造、大小、面積及撒砂(鹹砂)ヨリ鹹水ヲ採收スル方法 本章二十三項參照但シ鹹砂貯藏裝置

ナシ

六 鹹水輸送裝置ノ構造面積及輸送ノ方法 鹹砂ヲ沼井(臺)ヨリ濾過シ其濾液ヲもんだれヨリ取り鹹水輸送器ニヨリテ土

倉ニ送ル(圖面參觀)

七 採鹹用器具ノ名稱、種類、員數、構造、大小、形狀、効用及使用方法 臺(沼井)付型 梯形ニシテ臺即チ沼井ヲ造ルニ當

リ之ヲ型トシテ其周圍ニ粘土ヲ塗リ然ル後之レヲ抜キ取り臺ヲ製ス高サ四尺三寸巾四尺底三尺五寸ノ方形ナリ(圖面參觀)

皮剝手鍬 一 普通ノ鍬形ニシテ柄ノ短キモノ降雨後鹽田上層ノ撒砂ノ鹽田地床ニ付着スルヲ離スニ用ユ巾五寸長サ一尺六

寸柄ノ長サ二尺(圖面參觀)

こすくい 一 普通ノ雪かきト全様ニシテ凡テ木製ニシテ鹹砂ヲ臺(沼井)ニ入ル、ニ使用ス巾一尺長一尺五寸ノ長方形ノ板

柄長七尺ノモノ(圖面參觀)

つばあて 小麥藁製ニシテ臺(沼井)ニ水ヲ入ル、際鹹砂堀レ濾過ノ均一ヲ失スルヲ防ク爲ニ用ニ扇形ニシテ長サ二尺穂先ノ廣サ一尺(圖面參觀)

掛桶 通常ノ桶ニシテ海水ヲ鹽田ニ撒布スル場合ニ之ヲ中央部ニ置キ之レヨリ海水ヲ酌ミ田面ニ撒布スルナリ口徑一尺六寸深サ一尺三寸(圖面參觀)

木鍬 普通ノ鍬形ニシテ臺(沼井)ニアル素砂ヲ取ル際ニ用ユ巾一尺長サ一尺八寸柄五尺(圖面參觀)

箕扱 普通ノ筵ノ如キモノニシテ小麥藁ニテ製ス臺(沼井)ノ中ニアリテ鹹水濾過ノ際素砂ノ出スルヲ防ク爲鹹砂ノ下ニ敷クモノナリ巾三尺八寸長サ四尺(圖面參觀)

簀竹 通常ノ竹ニシテ臺(沼井)ノ中ニアリ鹹水濾過ノ際簀菰ノ臺(沼井)底ニ附着スルヲ防ク爲ニ用ユ徑三分長サ三尺八寸(圖面參觀)

馬鍬 農家ノ苗床整地用ノモノト同形ニシテ鹽田ヲ踏ミ返シタル後地盤ヲ均一ニスルトキ用ユ三寸角長サ四尺ノ木ニ柄五尺竹製又ハ鐵製ノ齒ヲ附着セシム(圖面參觀)

鎌 普通ノ草刈ニ用ユルモノト同様ニシテ凡テ器具ノ先ヲ削ルニ用ユ巾不定及先ヨリ元迄三寸柄八寸(圖面參觀)

五 根太 木製ニシテ臺(沼井)ニ入レ簀竹ト臺(沼井)底附着スルヲ防ク爲用ユ巾二尺厚一寸長サ三尺八寸(圖面參觀)

摺柄振 鹽田踏返シ馬鍬ヲ以テ均シタル後之ヲ用ヒテ鹽田ヲ均ラスニ用ユ四寸五分角長サ二尺七寸ノモノ柄ノ長サ五尺七寸(圖面參觀)

叩槌 木製ニシテ臺(沼井)ノ底部ヲ堅ムルトキ之ヲ以テ叩クモノナリ經二寸長サ一尺ノ圓柱ニ長サ十尺ノ柄ヲ付シタルモノ(圖面參觀)

臺堅鞭 木製ニシテ通常しつくい又ハたゞきヲ製スルニ用ユルモノト同様沼井(沼井臺)ヲ造ル際粘土ヲ叩クニ用ユ長サ一尺二寸柄四寸(圖面參觀)

掛柄杓 木製ニシテ通常ノ柄杓同様鹽田ニ海水撒布ノ際ニ用フ口徑九寸深サ五寸五分底徑五寸柄四尺(圖面參觀)

鋤 普通ノ形ニシテ鹽田地盤變更ノ際踏ミ返スニ用フ長サ三尺四寸五分及巾四寸五分(圖面參觀)

撥釣瓶 普通田舎ニアルモノト同様鹹水ヲ汲ミ上クルニ用ユルモノニシテ通常ノモノヨリハ稍大ナリ而シテ一個掛ト二

個掛トノ二種アリ(圖面參觀)

擔桶 通常ノ桶ニシテ凡テ液体ノ運搬ニ用フ口徑一尺二寸五分深サ一尺二寸中央部ニ繩ヲ附シタルモノ(圖面參觀)

柄振 木製ニシテ鋤形、臺(沼井)ニ入ルヘキ砂ヲ引寄スル際用ユ巾一尺七寸長サ三尺長方形ニシテ五尺七寸ノ柄ヲ有ス

ルモノ(圖面參觀)

引板 普通ノ板ニ藁繩ヲ付シタルモノニシテ馬鋤、擡柄振ヲ用ヒタル後ノ均シニ用ユ巾五寸五分長サ八尺二寸五分(圖

面參觀)

臺附槌 木製ノ槌ニシテ臺(沼井)ノ粘土ヲ叩キ堅ムルニ用ユ徑二寸五分長サ九寸ノ圓柱ニ三尺六寸ノ柄ヲ付シタルモ

ノ(圖面參觀)

曳鋤 馬鋤ニ類シタルモノニシテ三寸角長サ四尺五寸五分ノ角柱ニ十五六本ノ齒ヲ付シ四尺四寸ノ柄ヲ付シタルモノ鹹

砂ヲ乾燥センカタメニ曳クモノナリ齒長サ不定凡テ女竹ヲ用ユ(圖面參觀)

均鋤 木製ニシテ地盤最終ノ均シニ用ユ巾二尺長サ二尺八寸ノ板(中央部稍高シ)二十尺七寸ノ柄ヲ付シタルモノ(圖面

參觀)

壺堀鋤 通常ノ鋤形ニシテ臺(沼井)ノ素砂ヲ出シ又ハ鹹砂ヲ臺(沼井)ニ入ル、時使用ス巾九寸五分長サ一尺八寸柄ノ長

サ五尺七寸(圖面參觀)

手鋤 普通ノ鋤ニシテ沼井(臺)ノ周圍ニアル砂ヲ引寄スルトキ使用ス巾三寸長サ二尺三寸柄ノ長サ八尺(圖面參觀)

花杓柄 普通ノ柄杓形ニシテ臺(沼井)内ノ砂ヲ均一ニセン爲使用スルモノニシテ口徑七寸五分深サ五寸底徑五寸柄ノ長

サ八尺(圖面參觀)

鳴海鍬 普通ノ鍬形ニシテ臺(沼井)内ノ鹹砂ヲ均一ニスルトキ使用ス巾九寸長一尺七寸長方形ノ板ニ五尺七寸ノ柄ヲ付シタルモノ(圖面參觀)

鍋籠 普通竹製籠ニシテ双方ニ繩ノ手ヲ有スルモノ凡テ粘土又ハ土等ヲ運搬スルニ用ユ徑一尺五寸五分深サ五寸(圖面參觀)

土倉 通常ノ槌ニシテ鹹水貯藏場ノ地盤ヲ叩クニ用ユ徑六寸長サ一尺二寸ノ圓柱ニシテ柄ノ長サ一尺四寸(圖面參觀)

水車 通常ノ水車ニシテ大小アリ大ナルモノハ三人共同シテ使用シ小ナルモノハ一人ニテ使用ス又雨後鹽田ニ於ケルカ

如ク水溜リタル際之ヲ以テ排水スルニアリ(圖面參觀)

汲出杓 通常杓形ニシテもんだれノ鹹水ヲ汲出スニ用ユ口徑一尺深七寸底徑七寸柄ノ長サ五尺七寸(圖面參觀)

八 採鹹用器具員數新調費及保存期限

品目	員數	新調費	保存年限	品目	員數	新調費	保存年限
臺形	一	三、〇〇〇	三ケ年	鋤	四	一、五〇〇	一ケ年
皮剝手	三	五、〇〇〇	三ケ年	瓶	二	四、〇〇〇	一ケ年
こすく	六	五、〇〇〇	一ケ年	擔	一	九、〇〇〇	一ケ年
つばあて	一四	一、〇〇〇	四ケ月	振	一	五、〇〇〇	一ケ年
掛桶	二	六、〇〇〇	二ケ年	板	二	一、〇〇〇	五ケ年
木鍬	一五	七、〇〇〇	二ケ月	鍬	二	一、〇〇〇	一ケ年
簧(大)	二〇	一、〇〇〇	九ケ月	槌	三	一、〇〇〇	五ケ年
簧(小)	七〇	八、〇〇〇	四ケ年	均	二	二、〇〇〇	四ケ年
馬鍬	一二	四、〇〇〇	三ケ年	壺	一	七、〇〇〇	二ケ月
鎌	三	一、〇〇〇	四ケ月	手	三	八、〇〇〇	一ケ年

掛	臺	叩	箆	摺	根
柄	堅		菰	柄	
振	鞭	梶	(小)	振	太
			二〇〇	二	一六
六	五	一			
五〇〇	一〇〇	一五〇	一〇〇	四〇〇	一〇
一	二	一	九	一	五
ケ	ケ	ケ	ケ	ケ	ケ
年	年	年	月	年	月
汲	水	土	鍋	鳴	花
出	倉		海		柄
杓	車	ハ	籠	鍬	杓
			四	四	二
			一〇〇	三〇〇	五〇〇
			〇	〇	〇
			五	三	一
			ケ	ケ	ケ
			年	月	年

一臺三付

七一九

九 鹹水貯藏裝置ノ構造、大小、形狀及面積 地盤ヲ掘リ下ケ之ヲたゝきトナシ液ノ透入或ハ透出ヲ防キ地平線ヨリ屋根ヲ製シ其ノ屋内ニハ鹽田濱雇人夫ノ寢室三四アリ面積三十六坪餘

十 鹽田地盤ノ構造及性質 鹽田地盤ヲ三層ニ區分シ上層ハ五寸其上ニ鹹砂ヲ撒布ス(厚サ三四分)中層ハ粘土質ニシテ之ニ貝殻ヲ含有シ下層ハ細砂土ニ介殼及砂礫(五寸乃至一尺)ヲ混同シタルモノ其ノ介殼アルハ水分ノ透入ヲ求ムル爲特ニ少量ヲ入ル、ト云フ凡テ年一回踏返ス爲自然中層ニモ又多少ノ介殼ヲ混同ス

十一 撒砂ノ種類性質 鹹砂ハ當地固有ノモノニシテ撫養齋田地方ニ比スレハ稍黑色ヲ帶フ徑〇、二五ミリメートルヲ有ス而シテ之ヨリ得タル鹹水ハ濾出時間速キモ鹹水稍悪性ナリ當今ニ至リ撫養地方ヨリ輸入スル傾向アリ當地ノモノハ撫養地方ノモノニ比スルニ大ニ黑色ヲ帶ヘリ

十二 撒砂撒布量及替砂數 鹽田一坪ニ對シ約一斗二外重量約五貫二百目餘季節ニ依リ増減ナシ

十三 撒砂乾燥ノ時間 春夏秋冬其ノ趣ヲ異ニシ殊ニ風力ニ依ル影響多キヲ以テ季節ト關係ヲ有ス

月	次	乾	燥	時	間	月	次	乾	燥	時	間
一	月	五	時	間	半	七	月	三	時	間	半
二	月	五	時	間	半	八	月	四	時	間	半

三	月	四	時	間	九	月	六	時	間
四	月	時	間	十	月	四	時	間	
五	月	時	間	一	月	五	時	間	
六	月	時	間	二	月	五	時	間	

但シ右表ハ晴雨ニ依リ殊ニ六月七月ハ梅雨時節ニ頻スレトモ右晴天ト見做シテ計算シタルモノナリ

十四 撒砂(鹹砂)浸出装置(沼井又ハ臺等)ニ注入スル海水量鹹水採收用トもんだれ採收用トニヨリ各別ノ容量及鹹水又ハもんだれ採收量 沼井ニ注入スル海水量ハ六斗ニシテ之ヨリ得ル鹹水ハ五斗八舛ナリ(圖面參觀)

十五 海水鹹水及もんだれノ性質

分析表

比重	色澤	浮遊物	鹽素(Cl)	酸化苦土(MgO)	酸化石灰(CaO)	酸化加里(K ₂ O)	曹達(Na)	硫(S)
一、〇二〇〇	無色	多	一、六六〇五	三、六二一六	一、三八八	〇、〇一八四	二、四二四	二、五七九
一、〇九〇〇	褐跡	多	一、三、六八二四	六、一三三六	一、〇一四二	四、七八六	九、二三四〇	二、五、七九三六
一、〇九〇〇	稍褐	多	三、九九三八	二、六〇五	二、一一六八	〇、九六五	〇、〇七三七	八、三五七

十六 海水引入排出水開海水汲揚装置及汲揚方法

當鹽田ハ凡テ入濱ニシテ水開ニヨリテ海水ヲ引入ス而シテ當鹽田ハ概

シテ地盤抵キヲ以テ滿潮ノ際水開ヲ閉シ干潮ノ際海水ヲ鹽田ニ入ル、ナリ(圖面參觀)

十七 海水貯溜地ノ有無大小深淺及面積 該當記事ナシ

十八 鹽田一戸前又ハ一定反別ノ一ヶ年平均鹹水採收量及月別鹹水採收歩合 日數七十日

内 譯

第一期 (一、二、三、四月) 二十一日 第二斯 (五、六、七、八月) 二十八日 第三期 (九、十、十一、十二月) 二十一日

採鹹總量 八千六百七十六石三斗六舛

内 譯

第一期 二千四百九十七石七斗四舛 平均比重一九度

第二期 三千六百八十石八斗八舛 全 一九度

第三期 二千四百九十七石七斗四舛 全 一九度

十九 鹽田一戸前又ハ一定反別ニ就キテ採鹹ニ要スル人夫種類名稱員數及賃銀 頭梁 砂投 砂入 鳴海踏 藻垂替 鹽掛 水揚等ニシテ今其ノ員數及賃銀ヲ示サハ左表ノ如シ

名	稱	員	數	賃	銀	賃	銀
頭	梁	一	六	通常日雇十八人	三二八二	定雇	八六二六
砂	投	一	二	日給二十八錢		百三十圓	一人
砂	入	一	二	此ノ日數七十日分		六十五圓	二人
鳴	踏	一	二	三百五十二圓八十錢		五十五圓	二人
藻	替	一	二			二十五圓	三人
垂	揚	一	二				
海	掛	一	二				
水	揚	一	二				

二十 鹹水採收時期及採鹹量ト風位トノ關係 當鹽田ハ凡テ西南風ハ能ク其乾燥ヲ助クルノ効アリ而シテ採鹹量ハ七月最

モ多ク五月ニ至テハ殆ト僅少ナリ

二十一 一年間採鹹平均日數 當鹽田ハ持濱ニシテ採鹹日數ハ前項ニ述ヘタリ(第十八章參照)

二十二 一年間平均鹹水採收量

		反	別	採	鹹	量
上	田		三、二八一二			八六七六、三六
中	田		三、三八〇九			九三四三、四〇
下	田		二、五五二七			五九六四、〇〇

但シ右ハ平年ノ採鹹量ヲ示ス

二十三 準備濱及持濱其他採鹹ニ關スル順序及方法 當鹽田ハ凡テ入濱式ニシテ滿潮面下五六尺ニ在リ周圍ハ堤防アリ滿

潮ニ際セハ少許ノ海水ヲ溝渠中ニ入レ鹽田面上層ノ撒砂ニ鹽分ヲ結晶セシメ猶之ニ海水ヲ撒布シテ砂粒ニ鹽分ヲ多量ニ結

晶セシメ之レヲ沼井(臺)中ニ入レ濾過シ撒砂ヲ洗滌シテ鹹水ヲ得ルナリ今採鹹操作ヲ初メンニハ先鹽田面ニ附着スル撒砂

ヲ引鋸ヲ以テ爬起ス但シ雨後ニ於テ堅ク附着スル場合ニハ皮剝手鋸ヲ以テ撒砂ヲ爬起スルヲ要ス而シテ午前中引鋸ヲ以テ

爬起スル事七回操作中三回ニ至リタルトキ海水ヲ撒布シ其七回ノ終リニ至リ均シヲ以テ撒砂ヲ均一ニス午後ヨリハ又爬砂

ヲ行フ事三回最後ニ均シテ行ヒ又海水ヲ撒布ス而シテ其ノ間ニ沼井(臺)ノ中ニアル素砂ヲ出シ臺沼井ノ兩側ニ堆積シ或ハ

臺ノ兩側ニ堆積シアル素砂ノ雨ノ爲ニ流レタルモノヲ整理ス然シ夏期炎熱ノ際ハ操作ノ二日目ニ臺(沼井)ノ内ニ鹹砂ヲ

入レテ濾過スレトモ冬期ノ如キ乾燥不充分ナルトキハ三日目或ハ四日目ニ濾過操作ヲ行フ此濾液ハ即チもんたれニシテも

んたれヲ二回位反復濾過シタル後鹹水輸送溝ニ入レ土藏ニ送ルモノトス

乙 鹹水煎熬

一 釜屋ノ構造、大小、廣狹及面積 釜屋ハ概シテ平屋葺葺ニシテ内部ニハ釜及鹹水桶たばり等ヲ設備シ樋管ニ依リテ鹹水ヲ鹹水貯藏場ヨリたばりニ送ルモノトス周圍ハ土壁ヲ以テ(或ハ石ヲ以テ疊ミタルアリ)屋根ノ上方ニ水分ノ飛散スヘキ窓ヲ有ス煙突ハ大概煉化石ヲ以テ方柱ニ造リ又ハ瓦等ヲ以テ圓柱形ニ造ル等區々一定セサレトモ煉化ノモノ殆ント十中ノ八九ヲ占ム而シテ基礎四尺ニシテ頂部巾三尺高サ四間乃至五間 面積 二十七坪

二 釜及竈ノ種類構造、大小、製造原料及釜ノ深淺 普通石釜ニシテ方形或ハ扁平ノ石及藁灰或ハ木灰ニ苦汁ヲ混和シタルモノ又ハ讚岐土ト稱スル赤色ノ強粘土ヲ以テ製ス鐵製ノ釜ハ極メテ少ク僅々三個ニシテ他ハ皆石釜ナリ温釜ハ普通圓形ナレトモ中ニハ方形ヲナスモノアリ然レトモ之亦一二個ニ過キス

三 石釜及竈築造方法及築造後使用ニ至ルマテノ操作 竈ハ通常黃色ノ粘土ヲ以テ一丈三尺及九尺ノ方形ヲ作り其中央部ニ長サ三尺乃至六尺ノ馬ノ背ト稱スル灰ノ降下スヘキさなヲ造リ其ノ側部ニ灰取口ヲ製ス而シテ其さなノ上ニ焚口ヲ造ル其ノ焚口ノ反對ノ側面ニ於テ煙突ニ通スル管ヲ造ル釜ハ既ニ述ヘタル如ク石片及粘土ヲ以テ造ルモノニシテ釜底ト馬背即チ焚口ノ距離一尺二三寸ヲ取り竈ノ上ニねたト稱スル木二木ヲ渡シ其ノ上ニ木板ヲ一面ニ併列シ筋金四本ヲ方形ニ組立テ隅金ヲ嵌入シ然後釜石ヲ板上ニ述ヘ前述シタル糊灰一百斤ト藁灰或ハ讚岐土ニテ結合シ諸所ニつりかねト稱スル鐵製鈎四十五本ヲ嵌メ周圍ニ壁土ヲ以テ高サ三四寸ノ縁ヲ設ケタル後尖リト稱シ松ノ割木數十貫ヲ塗り終リタル釜ノ上ニ併列シ之ニ火ヲ點スレハ漸次乾燥ス若シ乾燥ノ際龜裂ヲ生スルトキハ眞ニ粘土ノ糊狀ノモノヲ其傷所ニ注入シテ直ニ之ヲ充填スル事ヲ得ベシ而シテ其乾燥終レハ直チニ鈎鐵ヲ上部ニ設置シタル木材ニ繩ヲ以テ結ヒ付ケ最初ノ板ヲ抜き取り更ニ粘土ヲ以テ四壁ヲ塗り釜ト竈トヲ聯結シ其翌朝ヨリ焚初ムルモノトス猶釜ノ平面ノ凸凹ヲ均一ナラシムル爲凹處ニハマナコ石ト稱スル約八ミリメートル位ノ石塊ヲ充テ釜面ノ水平ヲ保タシム

四 鹹水ヲ釜屋ニ輸送スル裝置構造及方法 土倉ヨリ釜屋ニ至ル暗渠アリテ釜屋内ノたほりニ通スタほりハ土倉ノ底面ト
 水平ニシテ土倉ニ鹹水ノアラン限リハ絶ヘスタほりニモ保タレアルナリ
 五 煎熬用器具ノ名稱種類、員數、形狀、大小、構造及使用方法

品名	目數	量	保存年限	新調費	形狀大小
竈尻	こす	一	四年	八〇〇	柄二尺 先七尺
灰	殼	一	四年	一、二〇〇	柄二尺 先七尺
灰	搗	五	一年	一、七〇〇	柄二尺五寸 先長三寸 長一尺五寸
灰	搗	一	一年	一、七〇〇	口徑四尺、深サ一尺、高サ二尺
灰	搗	一	一年	三、五〇〇	口徑四尺、深サ一尺、高サ二尺
灰	搗	一	一年	一、二〇〇	通常ノ手桶形ニシテ
は	殼	三	一年	一、二〇〇	口徑一尺六寸、深サ一尺二寸
鐵	ら	二	一年	四〇〇	普通ノたんカニシテ
金	釣	一	一年	一、六〇〇	長サ六尺巾六尺五寸
刎	釣	二	一年	一、六〇〇	柄二尺 先八尺
鹽	取	三	一年	一、〇〇〇	鐵形柄五尺七寸 先一尺五寸七分
温	釜	二	一年	一、〇〇〇	口徑三尺 深サ一尺五寸
柄	振	一	一年	五、五〇〇	口徑三尺一寸 深サ二尺二寸
刎	能	一	一年	一、二〇〇	柄五尺 先巾六寸、長九寸五分
十	能	二	一年	四〇〇	柄四尺 先巾九寸五分、長一尺六寸
釣	能	一	一年	五〇〇	柄四尺六寸、一尺六寸ノ方形ニシテ縁アルモノ
釣	能	四	一年	七〇〇	
釜	入	一	一年	一、四〇〇	口徑一尺 深六寸底徑七寸柄四尺
手	入	二	一年	四〇〇	柄三尺 先長一尺三寸巾八寸ノ方形
火	入	三	一年	二、五〇〇	柄二尺 先七尺尖端ニ巾五寸ノ股アリ

筋	割	出	鹽	突
金	鐵	し	斗	柄
	槓	桶	桶	振
四十	一	一	一	三
ケ	ケ	ケ	ケ	ケ
年	年	年	年	年
一〇、〇〇〇	八〇〇	四、〇〇〇	一、〇〇〇	一、三〇〇
長サ一丈ニシテ兩端ニ一孔チ有 スルモノ	柄二尺五寸 先八尺	口徑三尺五寸 深サ一尺八寸	口徑八寸 底徑一尺二寸 深サ一 尺	柄九尺 先三寸ニ七寸ノ方形ノ モノ
長サ九尺ニシテ兩端ニ一孔チ有 スルモノ				
長三尺ニシテ兩端ニかぎチ有ス ルモノ				

七 燃料ノ種類名稱產地、價格及品質 燃料ハ石炭及柴ニシテ稀レニ松薪ヲ使用スルモノアリ

八 一釜ニ使用スル鹹水容量及製造鹽等級別數量 一釜ニ使用スル鹹水容量ハ三石七斗ニシテ比重ハ十八度ヲ有ス製鹽等

級ハ四等ヲ以テ平均トナス

九 煎熬ニ使用スル各種石炭ノ混合割合

三池ノ粉炭 三分半

元山ノ切込炭 六分半

十 鹹水ヲ釜ニ注加スルニ先チ汚物ヲ除去スル装置 鹹水濾過器ニヨリ濾過シタル後之ヲ釜ニ送ル濾過器ハ普通桶或ハ箱

ニ砂ヲ入レタルモノニシテたほりヨリ刎鉤瓶ニテ之ニ移シ濾過スルモノナリ

十一 鹽田一戸前又ハ一定反別ヨリ得タル鹹水煎熬ニ要スル人夫ノ種類名稱員數及賃銀 一ヶ所ノ釜屋ニ對シ人員三人

役務ノ種別 頭梁一 小役二

一ヶ年延人員六百四十八人煎熬日數二百十六日 勞働時間一人八時間交代

十二 一晝夜ニ於テ煎熬ヲ終ル釜數及鹹水量並ニ其收鹽量 一晝夜ニ十三釜此鹹水量三十九石九斗一升ニシテ之ヨリ得ル

處ノ製鹽容量一釜一石一升三合ニシテ一晝夜總量十三石一斗六升九合此斤數二萬二千八十三斤等級四等トス但シ釜初及釜

尻鹽ハ五等ヲ免レス

十三 鹽田一戸前又ハ一定反別ヨリ得タル製鹽總量

總石數 七百八十四石五斗六舛

總斤數 十三萬三千〇二十斤

三等鹽 三萬八千六百二十斤、千二十八圓二十錢

四等鹽 五萬六千九百三十五斤、千四百十五圓八十錢

五等鹽 三萬七千四百六十五斤、九百十七圓八十九錢

十四 居出場ノ構造、大小、廣狹 其大小一定セス凡テ從前ノモノハ二日居出シナレトモ專賣法施行後更ニ一日分ヲ增加

シ三日居出トナセリ

十五 煎熬ニ關スル操作及方法 鹹水ヲ煎熬セント欲セハ第一丸ほりヨリ鹹水ヲ汲取リ濾過シ之ヲ温ノ釜ニ入レ水分ヲ蒸

發セシメ次ニ煎熬釜ニ移ス煎熬釜ニ於テハ最初ニ生スル黒キ泡ヲ屢々取除キ且時々柄振ヲ以テ攪拌スルヲ要ス而シテ漸次

鹹水濃縮シテ食鹽析出シ糊狀トナルニ至レハ傍ニ備ヘアル鹽取籠ニ移シテ苦汁ヲ漏下セシム又結晶鹽ヲ除ケハ直ニ釜ニハ

温釜ノ鹹水ヲ移シ温釜ニハ直ニ濾液ヲ移シ置クモノトス而シテ最初ノ製鹽ハ次回ノ出來上ル迄ハ鹽取籠ニ置キ然ル後居出

ニ移シテ放置ス

十六 從來使用シタル釜及竈ノ遷變並使用燃料ノ變遷 從來釜ハ石釜ナリシカ近來鐵釜ヲ用フルモノ三家アルノミニシテ

其他變遷ナシ

十七 煎熬ニ關スル其ノ他ノ事項 該當記事ナシ

十八 一ケ年間平均煎熬日數 總日數 二百十六日

十九 一ケ年間平均製鹽高 總斤數 四十八萬九斤 石數 二千八百四十四石五斗

二十 一ヶ年間ノ採鹹及煎熬總費用

採鹹ニ屬スルモノ

一 濱人員 二十六人 此延人員千八百二十人此採鹹日數七十日 勞働時間三時間 賃銀七百九十七圓八十錢

但シ地主常雇年給百三十圓一人、六十五圓二人、五十五圓二人、二十五圓三人、計八人此給金 金四百四十五圓

通常日雇人十八人日給二十八錢七十日分 金三百五十二圓八十錢

煎熬ニ屬スルモノ

常雇ハ人一日一人十二錢延日數二千九百二十日

役務ノ種別

頭梁一人 小役二人 延人員六百四十八人 煎熬日數 二百十六日 賃金二百十三圓八十四錢

右上田ニ對シ田別三町二反八畝二十步

採鹹ニ屬スルモノ

煎一濱人員 二十八人

延人員千九百六十人採鹹日數七十日 賃金七百四十圓二十錢

但シ地主ノ常雇年給四十五圓二人三十六圓一人三十二圓一人十五圓一人日給十七錢一人十六錢一人十五錢一人計八人

此給金計三百四十八圓二十錢

通常日雇人十八人日給二十八錢定家族二人日給二十八錢 七十日分三百九十二圓

煎熬ニ屬スルモノ

釜一ヶ所ニ三人

頭梁一人 小役二人 延人員六百九十九人煎熬日數 二百三十二日、賃金二百三十圓六十七錢

但シ一人一日三十三錢三八二百三十三日分

右中田ニ對シ田別三町三反八畝九步

採鹹ニ屬スルモノ

濱人員 二十一人

延人員一千三百六十五人此採鹹日數六十五日 賃金五百三十四圓八十錢

但シ地主ノ常雇人年給四十圓七人給金計二百八十圓

通常日雇人十四人日給二十八錢六十五日 二百五十四圓八十錢

煎熬ニ屬スルモノ

釜一ヶ所 人員三人 役務 頭梁一人 小役 二人

延人員四百七十四人煎熬日數百五十八日 賃銀百五十六圓四十二錢

但シ一人一日三十三錢三人百五十八日分

右下田ニ對スル田別二町五反五畝二十七步

二十一 從來平年ニ於ケル鹽田一戸前又ハ一定反別ノ收支計算表

收 入

一金五千百三十六圓九十六錢 但シ製鹽高 四十八萬九斤 四等平均一〇〇斤一圓〇七錢

一金一圓十九錢 但シ苦汁賣却代一ヶ年百二十石一石ニ付 一錢六厘宛

一金十二圓二十五錢 但シこゝら一ヶ年四百九十貫 一貫ニ付三錢五厘

一金七圓三十五錢 但シ居出こゝら百〇五貫一貫目七錢

五千百五十七圓七十五錢

支 出

十一 金千四百十圓七十三錢九厘 但シ薪炭費總斤數 五十七萬五千六百四十斤

十二 金一千〇十一圓六十四錢 但シ採鹹人夫費賃金七百九十七圓八十錢、煎熬人夫二百十三圓八十四錢

十三 金百三圓三十三錢一厘 但シ地租四十圓二十九錢 其ノ他國稅十四圓八十八錢 縣稅二十一圓八十七錢七厘 町村稅

十四 十七圓二十八錢四厘 組合費九圓

十五 一金百六十七圓三十一錢 但シ包裝費一俵ニ付一錢五厘

十六 一金三十九圓五十錢 但シ金十圓雇人祝義 金二十九圓五十錢雇人酒肴料

十七 一金百六十五圓六十錢 但シ器具修繕費

十八 一金四百六十四圓六十二錢四厘 但シ資本總額金五千八百七圓八十錢ニ對スル利子一ケ年八分ノ割

十九 一金九十六圓 但シ運轉資本八百圓ニ對スル利子一ケ月一分ノ割

二十 一金九十三圓六十四錢 諸雜費

二十一 金二百七圓二十五錢 奉公人給料及右ニ對スル諸雜費

合計三千八百二十二圓六十三錢

三 差引千三百三十五圓十七錢五厘

二十二 其他採鹹、煎熬ノ方法、鹽田、釜、竈其他ニ關シ進歩シタル点改良ヲ要スヘキ並及改良案ニ鹽田採鹹煎熬法ニ於

テハ舊來ニ比シ稍進歩ノ点アルヲ認メタリ

鹽田採鹹ニ關シテハ地盤ノ清潔ヲ計リ降雨ノ后雨水ノ停滯ヲ防ク爲水開及水車ヲ増加シ從テ從前ニ比シあをみどろノ如キ

水車僅少トナレリ猶又排水ニ關シテ水車ヲ機械踏トナサントスルノ計畫アリ煎熬ニ對シテハ居出ヲ擴大ニシテ苦汁ノ滴ト

ヲ計リ從テ幾分カ若焚ヲナシ又煤ノ入ルヲ防クタメ焚口ヨリ一面ニ板ニテ圍ヲナシ鹹水ハ直ニ煎熬セス一應濾過シ然ル上

煎熬シ猶煎熬中ハ數度釜中ノ黑色ノ泡沫ヲ除去スル等大ニ進歩ノ緒ニアルト云フヘシ本ハ宜ニ煎熬サスル煎熬機ヲ熱ハ上

第四章 製鹽及副産物ノ種類、用途

- 一 眞鹽又差鹽ノ區別及各別ノ數量 凡テ差鹽ニシテ苦汁ヲ混和スル割合ハ一釜三石ノ鹹水ニ四斗ノ苦汁ヲ差ス
 - 二 鹽ノ理化學的質 製鹽ハ凡テ結晶大ニ失シテ色澤褐色ヲ帶フ然レトモ其色澤ニ比シテ成分ハ大ニ佳良ナリ煎熬機ニ使
 - 三 鹽主要ノ用途 鹽ノ用途ノ主ナルモノハ常食用ニシテ其他ハ鹽藏用ナリ今之ヲ區分スレハ
 - 鹽藏用 三分
 - 常食用 七分
 - 四 苦汁ノ用途 從來ハ別ニ用途ナク放棄シタリシモ本年ニ至リ大ニ廢物利用ヲ計リ之ヲ貯藏スルニ至レリ
 - 五 苦汁利用方法 本年ヨリ之ヲ利用セン爲當答島鹽業者ヨリ生スル苦汁ハ一手ニ之ヲ買入レ鹹水貯藏所ニ入レ芒硝ヲ製
- セントナシツ、アリ、
 六 苦汁生産量 一ヶ年百二十石
 七 苦汁貯藏裝置六十苦汁ノ貯藏方法及裝置ハ未タ一定セルモノナク一手買受人ニ於テハ自家ノ不用ノ鹹水溜ヲ應用シテ之
 レニ貯藏シツ、アリ
 八 苦汁一石ノ賣買價格 一石ニ付 金一錢六厘
 九 苦汁ノ運搬方法及其路地 當地ヨリ生スル苦汁ハ他地方ニ運搬スルコトナク當地製鹽家之レヲ買入レ小舟ニ樽ヲ置キ
 之レニ入レテ運ヒツ、アリ
 十 苦汁ヨリ生スル副産物 該當記事ナシ
 十一 鼠鹽、かいさき鹽、泥鹽、居出鹽、釜立鹽等ノ粗惡鹽ノ使用方法及價格 鼠鹽、釜こいら、泥鹽、かいさき、居出
- こいら、以上ハ總テ肥料用ニ供用セラレ、釜こいら、釜一枚七十貫、此代十貫目ニ付二十五錢、居出こいら、此代十貫目

七十錢トス

第五章 鹽ノ包裝及秤量

一 從來ニ於ケル一包裝鹽ノ數量 從來ニ於ケル鹽ノ包裝ハ稻藁ヲ以テ製シタルモノニシテ一俵ノ容量ニ斗五升五合此重量六貫八百目ヨリ七貫目迄トス

二 包裝ノ形狀、種類 (圖面參觀)

三 包裝ノ編製方法及其原料 原料ハ稻藁ヲ用ヒ編製法ハ普通ノ米俵ヲ製スルト同一ナリ

四 各種包裝ノ價格 一俵ノ製造費 金二錢

五 包裝ハ一重ナルカ又ハ二重ナルカ又ハ其形狀、大小等販路先キニヨリ差異ノ有無 各レノ地ニ至ルモ總テ同形ニシテ

一重ナリ高八寸 口徑約八寸(圖面參觀)

六 包裝ニ付記スル商標其他記號ノ種類、形狀、大小



上標ハ山腰宅造

一入

上標ハ原誠一

七 秤量器ノ種類、形狀、大小、材料 從來ハ秤目ニ依リタルモノニシテ秤量器ハ杉材等ニテ底ノ開キタル口ノ狭キモノ

ヲ用ヒタリ

第六章 貯藏方法

一 倉庫ノ構造、小及壁床ノ構造 倉庫ハ大概萱屋根ニシテ壁ハ地平面ヨリ六尺ノ高ニシテ而シテ壁ハ下部五尺ハ石ヲ

疊ミ付ケタルモノナリ而シテ釜屋ノ側ニ一間ノ口ヲ設ケ又其反對ノ側ニ於テハ二尺四方ノ口ヲ設ク

(一一) 撫養鹽務局見能林出張所ノ部 第五章 鹽ノ包裝及秤量 第六章 貯藏方法

二 貯藏方法及貯藏期間ニ於ケル俵ノ損傷ノ程度及狀態、倉庫内ハ可成暗黒ニシテ風ノ浸入ヲ防ク爲貯藏中ノ鹽ニ對シテハ側部及上部ニ葎ヲ被フ而シテ凡テ四俵立テニシテ貯藏中ノ一定規間ニ損傷スル程度ハ二ヶ月間ニ三分ノ割合ニシテ凡テ苦汁ニ浸潤ナレ變色ス而シテ中央ノ俵ハ苦汁ノ出ルニ從テ食汐ノ容積ヲ減シ從テ上部ヨリ壓搾ヲ受クル爲ニ扁平形ニ變スルモノ或ハ苦汁ノ爲腐敗スルモノ等多シ

三 俵裝ノ大小ニ依ル積載ノ高サ若クハ俵數及積揚方法 形狀ハ同一ニシテ四俵積ナリ高サ一俵ノ高サ八寸四俵ノ高サ四尺

四 一ヶ月間ニ於ケル眞鹽及差鹽ノ各貯藏步減及滴出苦汁量 一ヶ月三百匁 二ヶ月四百匁 三ヶ月五百匁
以上此ノ比ニ準ス

第七章 鹽ノ販賣

- 一 從來ニ於ケル鹽販賣ノ方法、當地方ノ販賣ノ方法ハ問屋ノ取次ニ依テ行ハレ他地方ヨリ鹽船來リ船長各自仲買人ニ賣買ヲ求メ製鹽者ハ仲買人ニ一俵ニ付五厘ノ周旋料ヲ支拂フモノニシテ又船長ハ仲買人ニ五厘ノ周旋料ヲ支拂フモノトス而シテ倉庫ヨリ本船ニ至ル解賃ハ一俵ニ付二厘五毛ニシテ船長ト鹽業者トノ負擔トス
- 二 鹽ヲ賣買スル船頭ノ習慣及船頭カ鹽ヲ賣買運搬スル方法船員ノ給料船頭ト鹽商トノ關係 小賣及土佐地方ヘ行クヘキ鹽船ニ對シテハ代價ノ外製鹽者ヨリ一俵ニ付一錢位ノ手當ヲ支給スヘキ慣行アリ而シテ其船長及船夫ノ給料等ハ其ノ船舶ニ依リ一定セス而シテ船長自ラ鹽ヲ賣買運搬ヲナスニ非スシテ問屋ノ依頼ニ應シテ之ヲ行フモノナリ
- 三 從來ニ於ケル鹽ノ販路 從前ハ東京主タリシモ現今ハ土佐主ニシテ其他紀洲及地廻等ナリ
- 四 鹽商カ鹽業者ニ資金ヲ融通スルノ有無及其方法、契約並ニ償却ノ方法 當地方ニ於ハ或ル場合ニ依リ資金ノ融通ヲナスコトアリ其ノ償却方法ハ製鹽ヲ以テ返済スヘキ方法トセリ

五 從來ニ於ケル鹽濱相場及小賣價格

三十五年度

濱 相場 三十七錢

一俵當リ

小賣 價格 三十八錢

全

三十六年度

濱 相場 三十六錢

全

小賣 價格 三十七錢

全

三十七年度

濱 相場 三十六錢

全

小賣 價格 三十七錢

全

六 鹽價ノ定メ方 天候如何ニ依リ變動ヲ來スモノニシテ例ヘハ雨天ト見込メハ大ニ強氣ヲ生シ晴天ト見込メハ弱氣ヲ生

ス故ニ鹽ノ價格ハ天候ノ如何ニ依リ一定セサルモノナリ

七 販賣ノ季節 十月、十一月最モ多數ヲ占メ二月、三月ハ實ニ微々タルモノナリ

八 鹽俵抜キ検査ノ方法 繩製ノくじヲ用非テ検査ヲ定メ小舛ヲ以テ二斗五舛五合ヲ標準トシテ検査ヲ行フ

九 鹽ノ受渡ニ際シ重量、容量ノ減少ニ對スル處置 右ニ對シテハ前項ノ如ク二斗五舛五合ヲ標準トナスヲ以テ右ノ舛目

以上ハ買手ノ利潤トス然レトモ舛切アルトキハ一合ニ付キ四合ノ舛トセリ

十 鹹水賣買ノ有無及其方法、價格ノ定メ方

十一 製鹽ノ原料タル鹹水ニ對スル見越買ノ有無及其方法

該當記事ナシ

第八章 鹽ノ運搬方法及運搬費

一 從來ニ於ケル鹽ノ運搬方法及各種積載數量 第七章參照

二 各種運搬方法ニ依レル各運搬先迄ノ鹽一定量又ハ一定容量ノ運賃及出荷地ニ於ケル平敷料、諸費、保險料及着荷地ニ於ケル諸掛費用等

東京迄 一俵ニ付 七錢四厘乃至八錢

伊勢 全 五錢五厘乃至六錢

紀洲 全 三錢五厘乃至四錢

大阪 全 三錢乃至三錢五厘

土佐 全 四錢乃至五錢

而シ海上保險料ハ一百噸以下ノ小船ニハ附セス爲ニ土佐行等ニ於テハ保險ヲ附セス他ハ荷物ノ現價百分ノ一ノ保險ヲ付ス

第九章 小作人ト地主トノ關係

一 小作人ト地主トノ契約 凡テ五ケ年間契約ニシテ地租村稅及建物修葺ハ地主ノ負擔ニシテ鹽田沼井(臺)ノ修葺、ごこ

ふみ等凡テ鹽田ニ關スルモノハ小作人ノ負擔トス

小作料ハ一軒前一町五反ニシテ七百十七俵但シ晴天打續製鹽高昇リタリト雖モ又天災地變ノ凶作ニ遭遇スルモ増減スルコトナシ

第十章 組 合

第十一章 試 驗

第十二章 輸出入及試賣

第十三章 鹽田以外ノ製鹽裝置及方法

第十四章 燒鹽

第十五章 再製鹽

以上六章該當記事ナシ

第十六章 鹽田地價等

一 鹽田ノ地價、時價小作料及鹽田ト他ノ土地トノ比較

地價 千二百二十圓九十一錢

時價 四千三百七十三圓三十二錢

普通ノ畑地ニ於テハ

一反歩 七八十圓

普通田地ニ於テハ

一反歩百八十圓ヨリ二百圓マテ

小作料

田 一反歩ニ付 一石三斗

畑 全 六斗

(一一) 撫養鹽務局見能林出張所ノ部 第十三章 鹽田以外ノ製鹽裝置及方法 第十四章 燒鹽
第十五章 再製鹽 第十六章 鹽田地價時價